



建学の精神

「感恩奉仕」

「神様」をはっきりと心に覚えれば覚えるほど、私たちの心の中に「有り難い」という感じが湧いてきます。父親や母親がどれほど有り難いものか、この世界に生まれたことがどれほど有り難いものかがよくわかってきます。「有り難い」との感が起こると、進んで親のために、兄弟のために、また社会のために、小さいことでもできる限り働いて差し上げようとの感じが起こってきます。この「有り難い」という気持ちを、西南女学院では「感恩」といい、他者のために働くことを「奉仕」といいます。

この理念は学生・生徒・園児への教育理念であると同時に、西南女学院の教育活動に参画しているすべての職員の職務理念でもあります。



西南女学院 校章・マーク
高等女学校創設時、「SOUTHWESTERN ACADEMY」のS・W・Aを組み合わせた校章が使用されました。これは今でも女学院中学校、高等学校の制服に生き続けていますが、大学・大学短期大学部ではS・Wのみを組み合わせたものを使用しています。

学校法人 西南女学院

〒803-0835 福岡県北九州市小倉北区井瀬1-3-1

TEL : 093-583-5033 FAX : 093-592-5391

創立

1899年(明治32)に来日し、その後熊本を任地として活動したウイリアム・H・クラークとルシール・D・クラーク宣教師夫妻は、当時日本の女子が置かれていた状況を見て、日本の基督教化と日本の将来の発展のためには「女子教育」が必須と考えました。当初は熊本に女学校設立を目指し奔走しましたが、やがて北部九州に拠点を移していきました。

1903年(明治36)アメリカ南部バプテスト派の宣教師集団は〈在日サラルゾルン・バプテスト宣教師社団〉を設立しました。〈西南女学院〉は、〈在日サラルゾルン・バプテスト宣教師社団〉を母体とし、宣教師 J・H・ロウを創立者として小倉に開学しました。この年は、西南女学院の創立母体であるアメリカの南部バプテスト連盟から派遣された宣教師が、初めて日本の土を踏んだ1889年(明治22)から数えて33年目にあたる1922年(大正11)4月のことです。

創立者 J・H・ロウに先立って開学の途を拓いたルシール・D・クラークが掲げたキリスト教女子教育の理想は、「未来の母親の心を目覚めさせ、キリストの下さる理想の生き方へと着実な歩みを続けさせる」という、キリスト教による人格教育でした。この精神に立って、開学以来、キリスト教学、チャペル、ミッションデー、春秋の特別集会、クリスマス礼拝、教会の礼拝出席のお勧めなどを通して、神様が西南女学院に与えた使命と働き(Mission)が続けられています。スクール・モットーの「感恩奉仕」は、建学の精神を最もふさわしく表わしたのものとして、学院内で覚えられています。

創立の背景と歴史

J・H・ロウは、アメリカ人男性の中でも稀に見られる堂々とした体格の持ち主で、大学時代のフットボール・チームにあってはスター選手でした。加えて、大変な美男子だったといわれています。1906年(明治39)のちに西南学院の創立者となるC・Kドージャーらとともに来日し、北部九州で宣教を始めましたが、やがて宣教師集団の中で指導的立場に立つようになりました。

第5代院長 原松太は創立当初より主事としてJ・H・ロウとともに教育に従事しましたが、回想録の中でロウのことを以下のように述べています。「貴君は言葉の人ではなく実行の人でした。貴君を追憶する時、私たちの脳裏に浮かんでくるものは、貴君の講話や教訓でなくて、気高い行為の数々であります」(ロウ講堂献堂式記念誌「心から心へ」より)

西南女学院の歴史を記した書物の中で、J・H・ロウに関する写真や記述は多くありませんが、浮かび上がってくる人間像は、立派な体格と威厳のある風貌ながら、活動は自らが前面に立って成すというよりは、全体がよく把握できる後方から集団の活動を見守り、適切な指導と援助をする人物であったといわれています。



創立者 John Hansford Rowe (1876~1929年)
全体がよく把握できる後方から見守り、適切な指導と援助をする人物であったといわれています。

